

平成29年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、法人ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成29年5月20日（土）～21日（日）1泊2日

(2) 参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人・30人

②参加人数

46人

(3) 講師等

1日目

講義1「ボランティア活動の意義」

内容：ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや留意点を学ぶ。

講師：吉備国際大学保健医療福祉学部

社会福祉学科 特任教授 米良重徳 氏

説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：青少年教育施設におけるボランティア活動内容を理解する。

報告：国立吉備青少年自然の家継続ボランティア 5人

講義・演習1「ボランティア活動の技術」

内容：各施設の特性に合ったプログラムに対応するための知識技術等を学ぶ。

講師：国立吉備青少年自然の家職員 主任企画指導専門職 大下展弘

2日目

講義・演習2「安全管理」

内容：応急手当など救命救急に必要な知識・技術を学ぶ。

講師：下関市立深坂自然の森 森の家下関 所長 井上桂 氏

講義2「青少年教育」

内容：今日の青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。

講師：公益財団法人 YMC Aせとうち 代表理事・総主事 太田直宏 氏

講義3「青少年教育施設の現状と運営」

内容：青少年施設の教育機能や役割、運営について理解する。

講師：国立吉備青少年自然の家 次長 高藤佳明

説明2「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：法人ボランティア登録制度について理解する。

説明：国立吉備青少年自然の家職員 企画指導専門職 瀧田正宏

(4) 企画・運営のポイント

- ① 本事業を広報する際、法人ボランティアが所属する大学では、その大学のボランティア数名にも広報活動に参加してもらい、ボランティア活動の様子を経験に基づいた生の声で紹介してもらった。
- ② 1日目説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」を法人ボランティアが行うことで、参加者視点の運営を行った。また、1日目の夜の情報交換会では、各テーブルに法人ボランティアが分かれて入り、活動の具体的な内容や思いなどを語った。
- ③ 演習では実際に活動を体験する中で、ボランティアを行う上でのポイントを実感できるように企画した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

5月20日(土)		5月21日(日)	
9:30	受付	6:00	起床・洗面
10:00	開講式	6:45	清掃
10:30	講義1 ボランティア活動の意義	7:15	朝のつどい
12:00	昼食	7:30	朝食・荷物移動
12:45	説明1 青少年教育施設におけるボランティア活動	9:00	講義・演習2 安全管理
13:45	アイスブレイク	12:00	昼食
15:00	講義・演習1 ボランティア活動の技術	12:45	講義2 青少年教育
19:00	入浴	14:30	講義3 青少年教育施設の現状と運営
20:30	情報交換会	15:30	説明2 青少年教育施設におけるボランティア活動
22:00	就寝	16:30	閉講式

(2) 活動の状況



【講義1「ボランティア活動の意義」】



【説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【アイスブレイク】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習2「安全管理」】



【講義2「青少年教育」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① ボランティアの重要な点について学べて良かったです。
- ② 法人ボランティアの皆さんからの話を聞くことができ良かったです。また、皆さんの様子を見て、私も先輩方のようになりたいと思いました。とてもやりがいがあるのだなと感じました。
- ③ ボランティアは経済的には無報酬ではありますが、心の報酬になるというお話に感銘を受けました。また、ボランティアは結構無理をして頑張らないといけないイメージがあったので、無理をせずにやれば良いことを知りました。
- ④ 様々なボランティア活動があること、各事業で子供たちの普段見られない姿を見ることができることなどが分かりました。また、先輩方がボランティアエピソードを語る姿がとても生き生きとしていて、私も参加したくなりました。
- ⑤ 安全のための講義や演習を通して、安全のためにすべきこと、意識することが分かりました。
- ⑥ 話が大変分かりやすかったので、青少年教育の大切さがよく分かりました。講義を聴いて、これからの人生をもっと楽しくできそうだと感じました。
- ⑦ 青少年教育施設の運営と事業内容について多くのことを知ることができました。特に、全国にも様々な施設があることを知ることができたので、多くの人と交流できるといいなと思いました。

- ⑧ 学校では絶対に体験できないことがここではできるということが分かりました。また、ボランティアに参加して、子供の笑顔に関わりたいと思いました。

(3) 成果

- ① 大学によっては、単位の認定を受けることができるということもあり、たくさんの応募があった。
- ② 各大学の法人ボランティアが所属大学の広報活動に参加したので、学生の中には高い関心を示し、ボランティア養成研修に参加した人もいた。
- ③ 各講義の講師は、参加者に対して分かりやすく講義をされ、基礎的な知識や技能の習得につながり、参加者の意欲の向上につながった。
- ④ 法人ボランティアが参加者と一緒に活動したので、参加者のボランティアへの関心が高まり、交流も盛んに行われた。

(4) 今後の課題

- ① 県内には大学がたくさんあるので、さらに募集を広げていきたい。
- ② 広報については、ホームページだけでなく、フェイスブックも活用している。多くの方が閲覧をしてくれているので、今後もしっかりと活用していきたい。
- ③ 昨年に引き続き、ボランティア養成研修と自然体験活動指導者養成事業の一部を兼ねた。自然体験活動指導者養成事業の参加者が、ボランティアに興味をもった部分もあるので、来年度も同様な形態で行いたい。

担当：企画指導専門職 瀧田 正宏